

報道関係者各位
プレスリリース

2016年4月4日
アスタミューゼ株式会社

「機能性食品/飲料」市場における科研費獲得金額ランキング TOP50

～総投資額約 263 億円、全大学/研究機関 540、4,461 テーマから注目の研究テーマをご紹介～

ビジネスを創る要素が、有形資産（タンジブル・アセット）から無形資産（インタンジブル・アセット）へと移行しつつある中、各企業がどのようなビジョンに沿って、人材・技術・ネットワークを獲得し、将来の新しい価値を生み出していくかが注目されています。

この状況下で、アスタミューゼ株式会社（以下、アスタミューゼ）は、世界 80 カ国の研究/技術/特許/アイデアの情報とそれに関わるプレイヤー（ベンチャー、中小企業、大企業）情報を集め、各先端分野に精通した専門アナリストが分析、「2025 年の 180 有望成長市場」という将来ビジョンを独自に定義しています。

今回は、基礎から応用までのあらゆる学術研究を発展させることを目的とする競争的研究資金「科研費」(※1)に着目。将来ビジョンの有望成長市場 180 のうちの 87 番目であり、総額約 263 億円の科研費を獲得している「87. 機能性食料/飲料」市場における大学・研究機関別の科研費獲得金額ランキングを発表、さらに注目すべき研究テーマをご紹介します。

(※1) 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金）

※今後、 科研費獲得ランキング発表予定の市場

- ・ 88. 醸造・発酵食品
- ・ 19. 発生工学・再生医療・細胞治療
- ・ 59. 海洋資源開発・深海探査

■全大学/研究機関 540、4,461 テーマ中、「87. 機能性食品/飲料」市場における大学・研究機関別 (※2) の科研費獲得金額ランキング TOP50(※3)

(※2) 研究代表者が所属する大学・研究機関

(※3) 2006～2015年の交付分。2016年2月時点でデータ取得

順位	大学・研究機関名	件数	総配分額 (円・計画含)
1	東京大学	203	1,971,141,000
2	東北大学	122	1,700,910,000
3	京都大学	146	1,316,815,000
4	九州大学	118	1,020,755,000
5	徳島大学	99	589,941,000
6	名古屋大学	71	511,250,000
7	静岡県立大学	90	501,934,000
8	農業・食品産業技術総合研究機構	92	474,712,813
9	北海道大学	80	468,982,000
10	大阪大学	61	392,470,000
11	お茶の水女子大学	48	360,720,000
12	広島大学	64	348,074,000
13	岐阜大学	47	316,590,000
14	日本大学	57	289,490,000
15	岩手大学	18	275,959,000
16	新潟大学	44	263,756,000
17	奈良女子大学	38	258,940,000

18	筑波大学	46	249,257,802
19	大阪市立大学	35	232,510,000
20	東京農業大学	40	219,700,000

※50位までのランキングは未来を創る有望成長市場・有望企業情報メディア『astavision』上でご覧になれます。

URL: http://astavision.com/contents/news/1884?from=pt160404_1

■注目すべき研究テーマをご紹介します

(※) 敬称略

◆「ミトコンドリア機能による老化調節機構の解明と抗老化食物質の探索」(東京大学 田之倉 優教授 他/2億1619万円)

老化のシステムを単純化して研究するための優れたモデルシステムである加齢性難聴に関し、聴覚の老化過程においてミトコンドリアのアポトーシス促進因子 Bak や脱アセチル化酵素 Sirt3 が関わる聴覚細胞のアポトーシスの調節に焦点を当て、その分子機構の解明を目指す。さらに、この分子機構で中心的是はたらく Sirt3 や他の調節因子を標的とした機能性食物質を探索し、その老化遅延効果の評価を行う。

◆「酸素や食物が内包する毒性に対する細胞の適応・応答の分子機構の解明」(東北大学 山本 雅之教授 他/5億1857万円)

酸化ストレスや異物のセンサとして働く分子 Keap1 の機能を構造学的手法で解析し、さらに、マウス個体を用いた機能性評価、およびストレス感知機構と疾患との関連を検証することにより、ストレス感知の新たな分子機構、疾患との関連を明らかにした。摂取している食物や酸素の内包する毒性は DNA 損傷を引き起こすことから、癌や老化に深く関与することがこれ

まで示唆されてきたが、この分子的なメカニズムの理解が進むことにより、癌や老化を予防する新たな機能性食品の開発が進展すると期待される。

◆「ポリフェノール類の機能性と安全性評価のための標的分子の解析」（徳島大学 河合慶親助教 他/2379万円）

食品中に幅広く含まれ、動脈硬化、癌、糖尿病などの生活習慣病やアルツハイマー病などの神経変性疾患など、様々な疾病に対して予防効果が期待されているポリフェノール類について、その生体内における特異的な標的部位、標的分子の解析を行うことで、生体内での機能性発現機構と安全性を評価するための基礎を構築することを目指す。

※50位までのランキングは未来を創る有望成長市場・有望企業情報メディア『astavision』上でご覧になれます。

URL: http://astavision.com/contents/news/1884?from=pt160404_2

■「87. 機能性食品/飲料」市場について

アスタミューゼでは企業情報・特許情報などのビッグデータ分析により、今後成長が見込まれる有望市場を「180の有望成長市場」として分類しており、そのひとつが「87. 機能性食品/飲料」市場です。

必須栄養素には含まれない化学成分で、適量摂取することで健康増進に効果を発揮することが期待される機能性成分として、食物繊維、ポリフェノール、カロテノイドなどが知られています。これらを含む食品は、一般に機能性食品と呼ばれたり、健康食品と総称されることがあります。現状、機能性食品や健康食品という概念自体に法的な定めはありませんが、近年、機能性表示食品制度やトクホが定められるなど、そのエビデンスを明確にしようという動きが活発化してきています。

現在フェーズでは成長中、近未来フェーズ（5-10年以内）では成長継続中でエビデンスベースの食文化へと移行、未来フェーズ（10年以上）ではさらなる成長が期待されています。

主な技術要素としては生体調節機能（生体制御・疾病の防止・疾秒の回復・体調リズムの調整・老化抑制）などがあり、主な技術・製品・サービスの例としては、「食後血統上昇を抑制する高アミノロース米」や「テーラーメイド機能性弁当の効果実証および供給システム開発」などがあります。

また、この市場の主なプレイヤーとしては、ネスレ、サントリー、東洋新薬、味の素、カネカなどがあり、180の有望成長市場における主な関連市場としては、「84. 食品安全モニタ/トレーサビリティ」「85. ブランド作物」「99. 化学農薬・生物農薬」などがあります。

アスタミューゼでは、この市場の2015年世界市場規模を167億米ドルと推定、2025年世界市場規模を1032億米ドルと推定しています。

■ 「87. 機能性食品/飲料」に関するベンチャー・最先端技術などの情報配信サービス

アスタミューゼでは、新規事業・オープンイノベーションのためのデータのご提供および実行支援を行っており、大手メーカーの経営企画/CVC部門、R&D/知財部門、新規事業部門をはじめ、金融・VCなど100社以上ご利用いただいています。

その中でも情報配信サービスでは、国内700大学/研究機関・約500万テーマの研究テーマ、全世界100万社の有望イノベーター（ベンチャー・大学発VB等）情報、全世界1200サイト・30万プロジェクトのクラウドファンディング情報を180の有望成長市場毎に分類し、「注目すべき企業」「注目すべき研究テーマ」「注目すべき製品・サービスアイデア」「プレイヤー毎の競合状況」といった切り口で、タイムリーな情報をピンポイントでお届けします。

月額 9 万円から、新規事業アイデアの探索、新規事業実行のための投資・提携先の探索といった用途にご利用いただけます。

※本プレスリリースのファイル内に、参考資料として「アスタミューゼが定義する 180 の有望成長市場」一覧を記載しております。

【お問い合わせ・サンプルご請求はこちら】

◆Web からのお問合せ

<http://www.astamuse.co.jp/contact/corporation/content?from=pt160404>

◆お電話でのお問合せ

03-5148-7392

■アスタミューゼ株式会社について

世界中の課題を解決し、未来を創るプラットフォーム『astamuse.com』
(<http://astamuse.com/>) を提供すると共に、法人向けサービスとして、自社の課題を解決するためのイノベーションに関わるコンサルティングサービスを展開しています。

- ・ 代表者：代表取締役 永井 歩
- ・ 設立：2005 年 9 月
- ・ 所在地：東京都中央区築地四丁目 1 番 1 号 東劇ビル 7 階
- ・ URL: <http://www.astamuse.co.jp/>

【本プレスリリースに関する問い合わせ先】

アスタミューゼ株式会社

担当：亀久

mail: press@astamuse.co.jp

TEL: 03-5202-8621